



NO. 348

2022. 6. 15

社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会

大阪市天王寺区東高津町12-10

大阪市立社会福祉センターB1F

発行責任者 小泉 いと子

TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623

<http://city-osaka-ikuseikai.or.jp>

定価 10円

大阪市手をつなぐ育成会 法人理念

障がいのある人が 安心して 心豊かに すごせるように

「第20回 大阪市手をつなぐ育成会大会」を開催しました

6月12日（日）にKKRホテル大阪で、第20回大阪市手をつなぐ育成会大会を開催しました。

昨年度、一昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大期にあたり、やむなく延期となりましたが、感染状況も落ち着きを見せ始めたこともあり、感染防止策を十分にしたうえで今年度の開催に至りました。

式典では大阪市福祉局 局長 坂田 洋一 様をはじめ17名の来賓の皆様にご臨席賜り、祝辞や激励のお言葉をいただきました。

冒頭の小泉理事長の挨拶では、特に昨年のコロナ禍で全国連合会や大阪市からのサポートや育成会の会員同士のつながりがあったことで心強かったと感謝の意を伝えられました。次に本人代表として「きずな会」の藤井 広子 会長から、日ごろの生活を送る中で、友人や支援者に支えられていることへの感謝を伝えるメッセージが織り込まれた挨拶がありました。



【小泉理事長から開会のご挨拶】

今大会のテーマは「住みなれた地域で暮らし続ける～みんな仲間や つながろう～」でした。前半は全国手をつなぐ育成会連合会の久保 厚子 会長より、中央情勢報告として、現在進められている社会保障審議会での障害者総合支援法の次期見直しの検討状況や、成

年後見制度の利用促進等の国での進捗状況の報告がありました。



【（一社）全国手をつなぐ育成会連合会 久保会長のご講演】

その後の基調講演では、「特定非営利活動法人デイセンターこのゆびと一まれ」（以降、このゆびと一まれ）の惣万 佳代子 理事長と西村 和美 副理事長に富山県よりお越しいただき、「住みなれた地域で暮らし続ける」というテーマで、事業所の日常を交えて講演をしていただきました。

このゆびと一まれでの実践は、2018年の介護保険法と障害者総合支援法の見直しにより、制度化された「共生型サービス」のモデルとなりました。共生型サービスとは、それまで介護保険サービスと障害福祉サービスといった対象者による縦割りであった領域の一部を崩し、同一事業所でそれぞれのサービスを実施することができる類型です。今後、日本が少子高齢化を迎えることにより、介護人材の不足が予測され、「2025年問題」とも言われている状況があります。国の方でも厚生労働省が中心となり、介護の担い手を確保するため、さらなる処遇改善策や外国人実習生の規制緩和策等を打ち出していますが、医療分野や福祉分野での支出が増加し続けることで、財源の問題もあります。一方で2014年頃からは、公的な支援に依存するのではなく、地域の課題は地域の住民が地域の特色に応じて解決していくとして、「我が事、丸ごと」